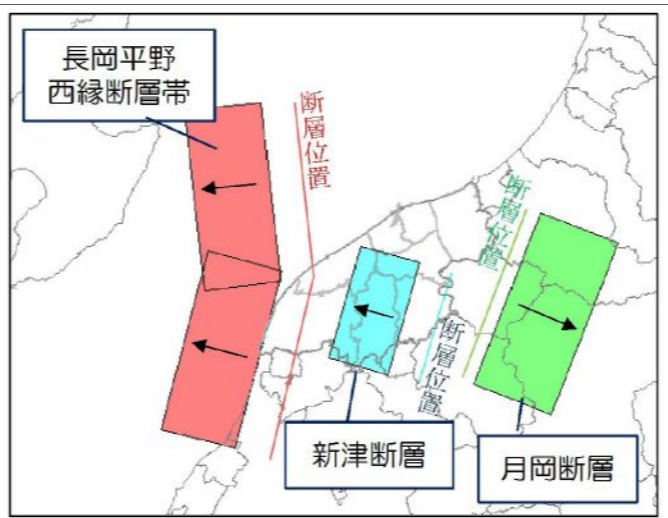


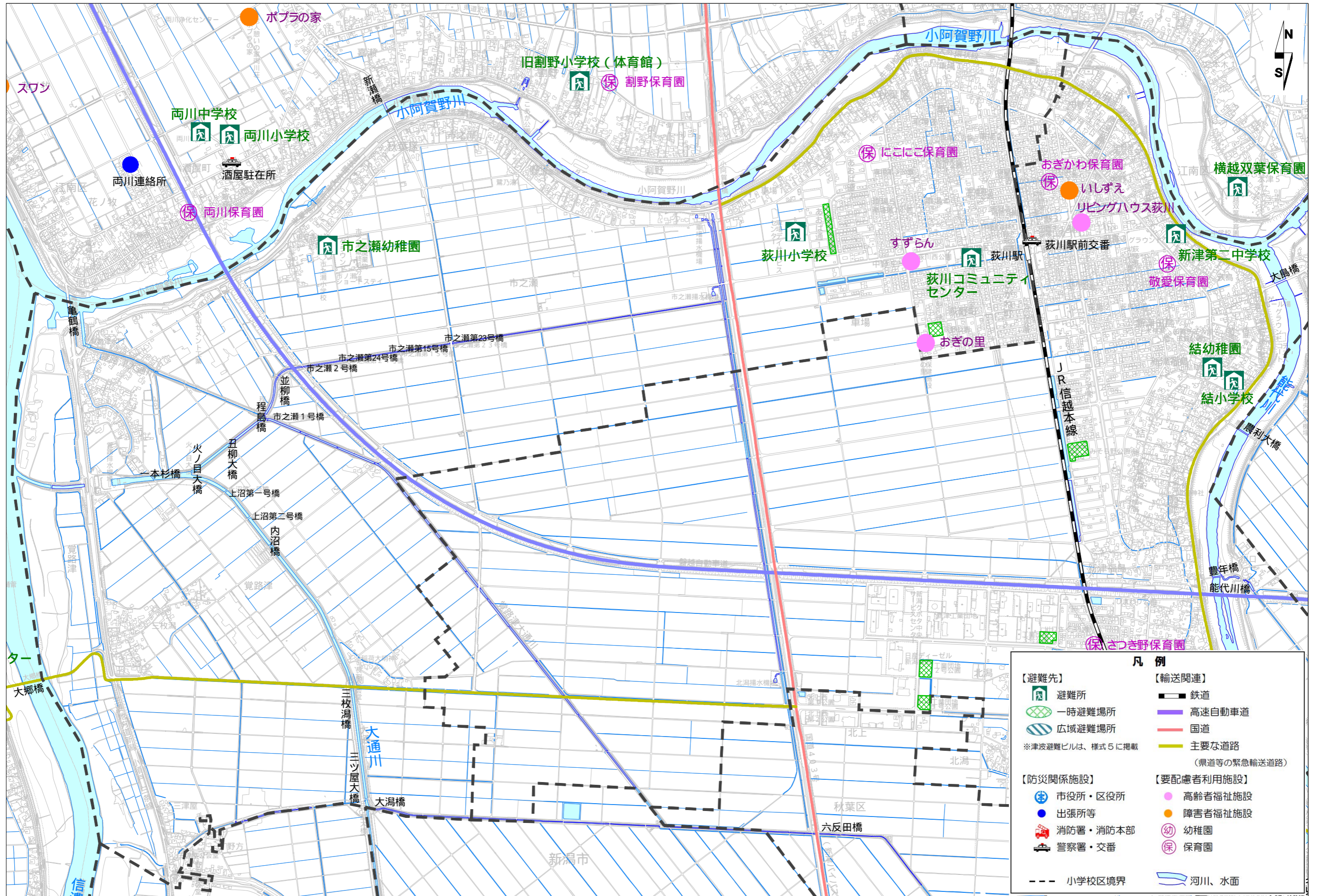
	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。  
【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】  
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

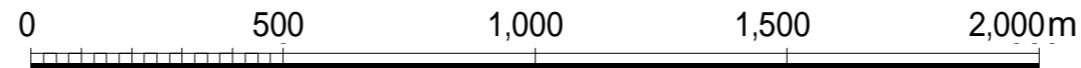
<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>  
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

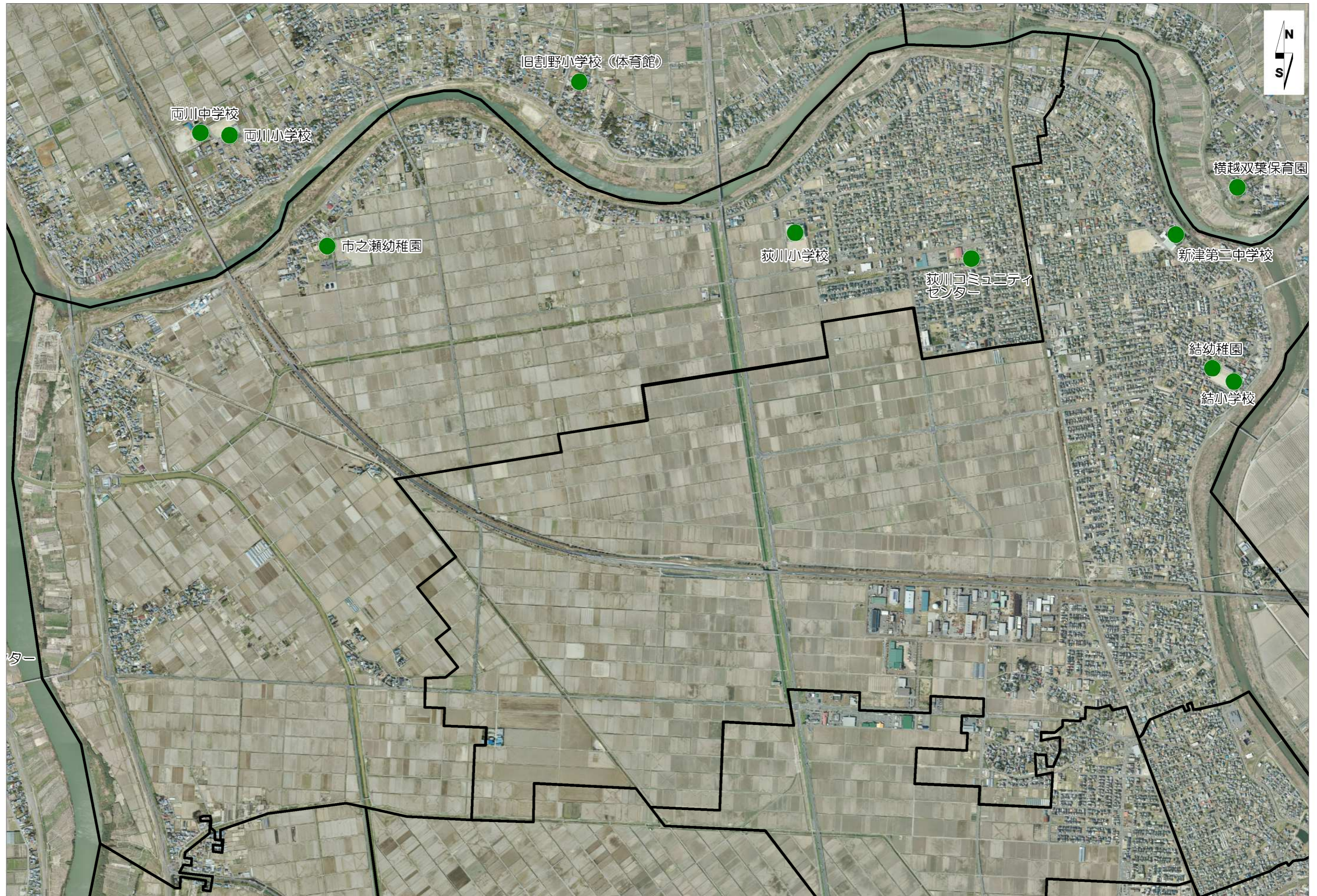


← は、断層の傾きを示しています。

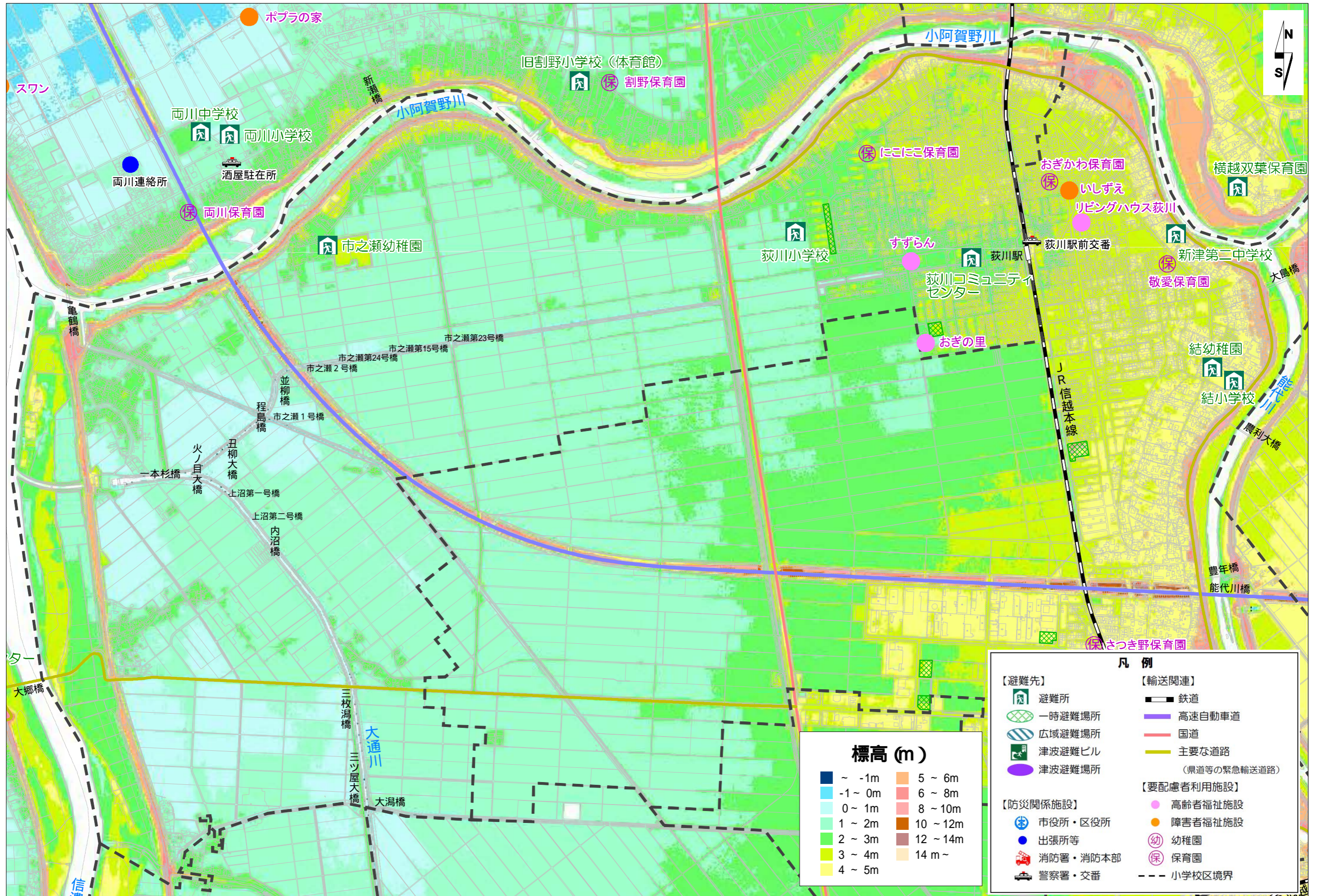


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)





様式5 標高分布図



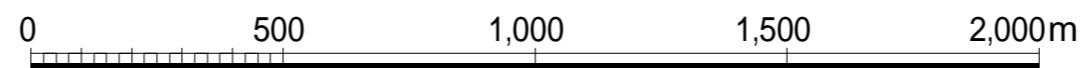
**標高 (m)**

~ -1m	5 ~ 6m
-1 ~ 0m	6 ~ 8m
0 ~ 1m	8 ~ 10m
1 ~ 2m	10 ~ 12m
2 ~ 3m	12 ~ 14m
3 ~ 4m	14 m ~
4 ~ 5m	

**凡例**

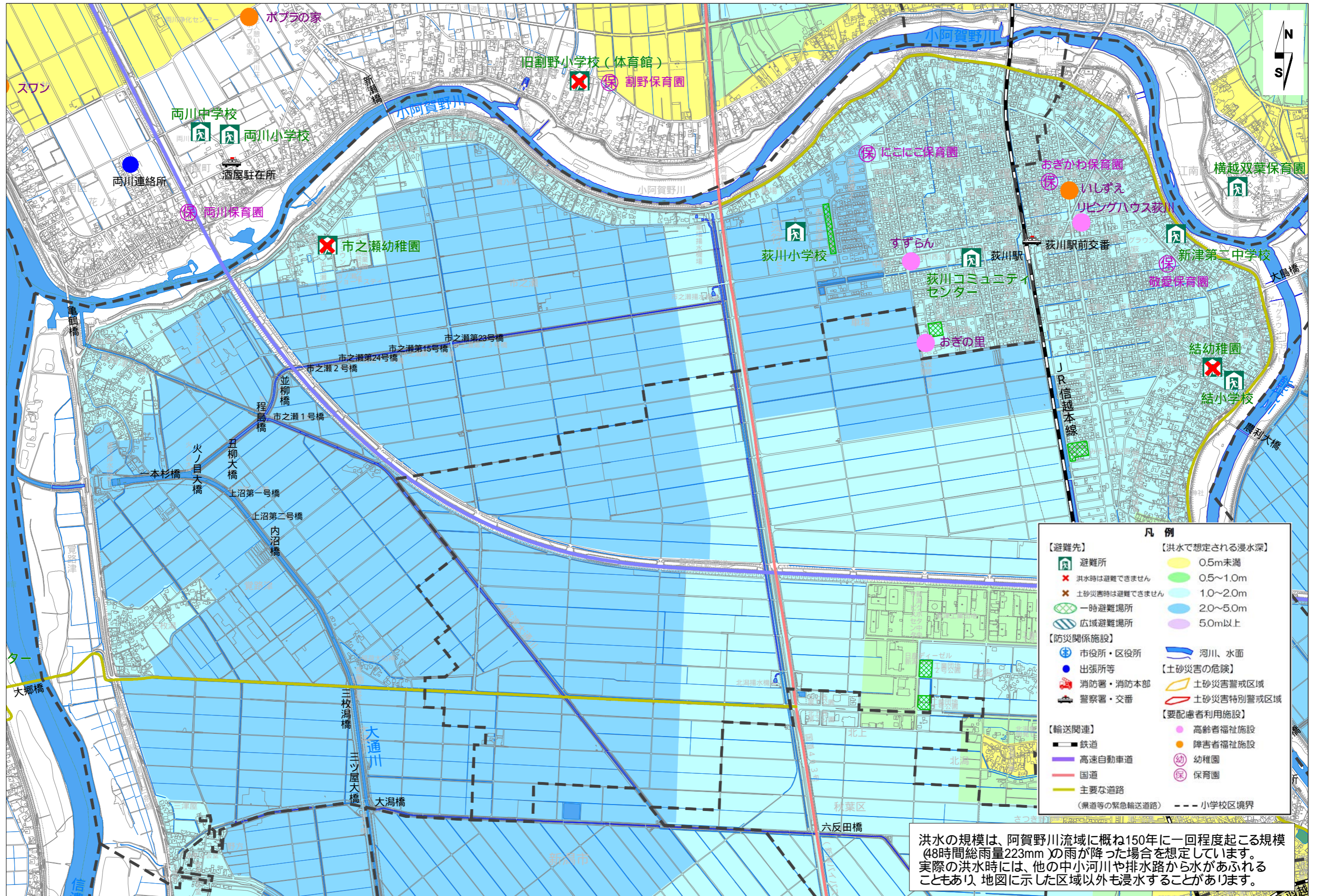
<p>【避難先】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難所</li> <li>一時避難場所</li> <li>広域避難場所</li> <li>津波避難ビル</li> <li>津波避難場所</li> </ul> <p>【防災関係施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市役所・区役所</li> <li>出張所等</li> <li>消防署・消防本部</li> <li>警察署・交番</li> </ul>	<p>【輸送関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道</li> <li>高速自動車道</li> <li>国道</li> <li>主要な道路 (県道等の緊急輸送道路)</li> </ul> <p>【要配慮者利用施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者福祉施設</li> <li>障害者福祉施設</li> <li>幼稚園</li> <li>保育園</li> </ul> <p>--- 小学校区境界</p>
--	---

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（阿賀野川）

荻川小学校区

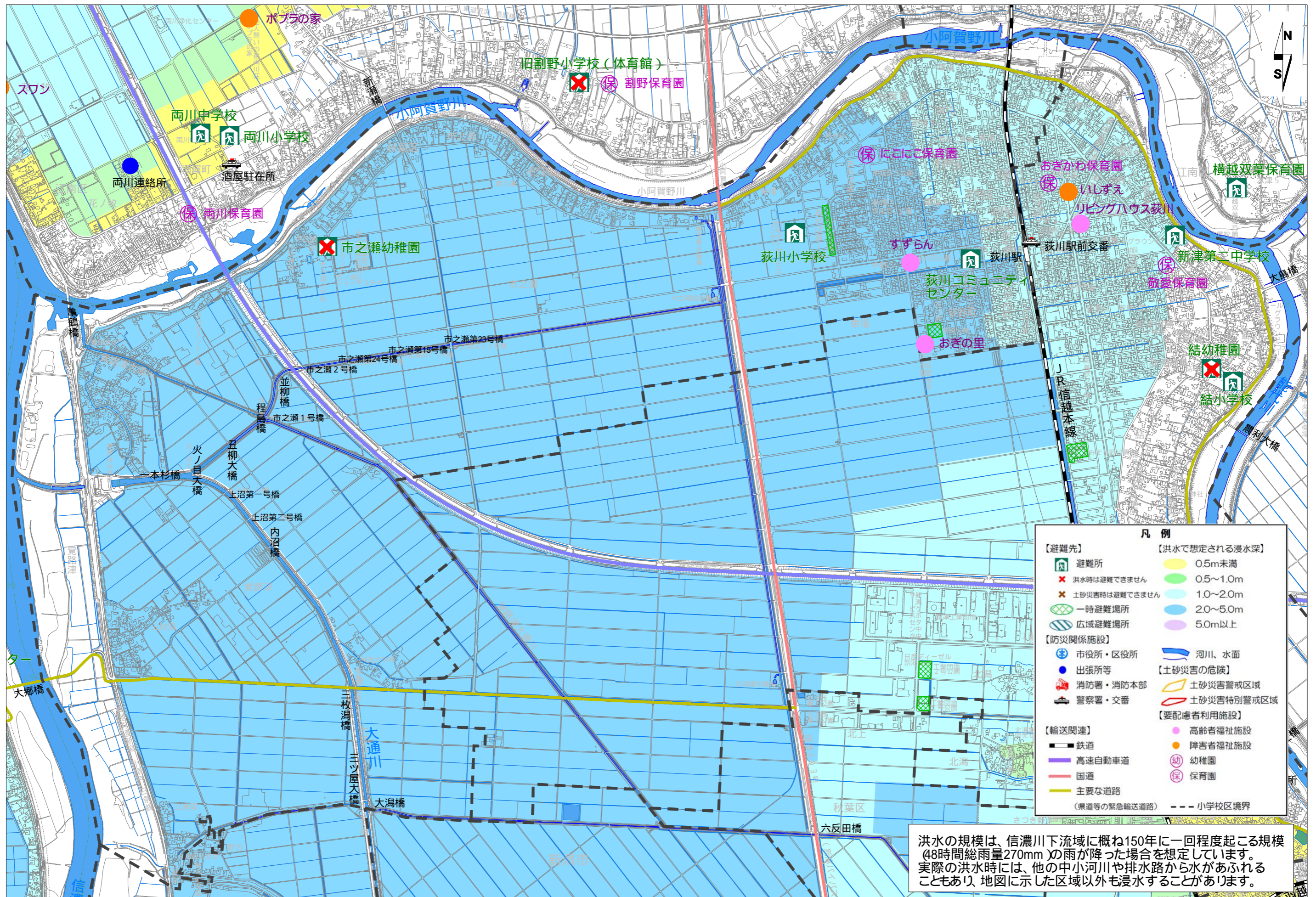


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)

0 500 1,000 1,500 2,000m

様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

荻川小学校区

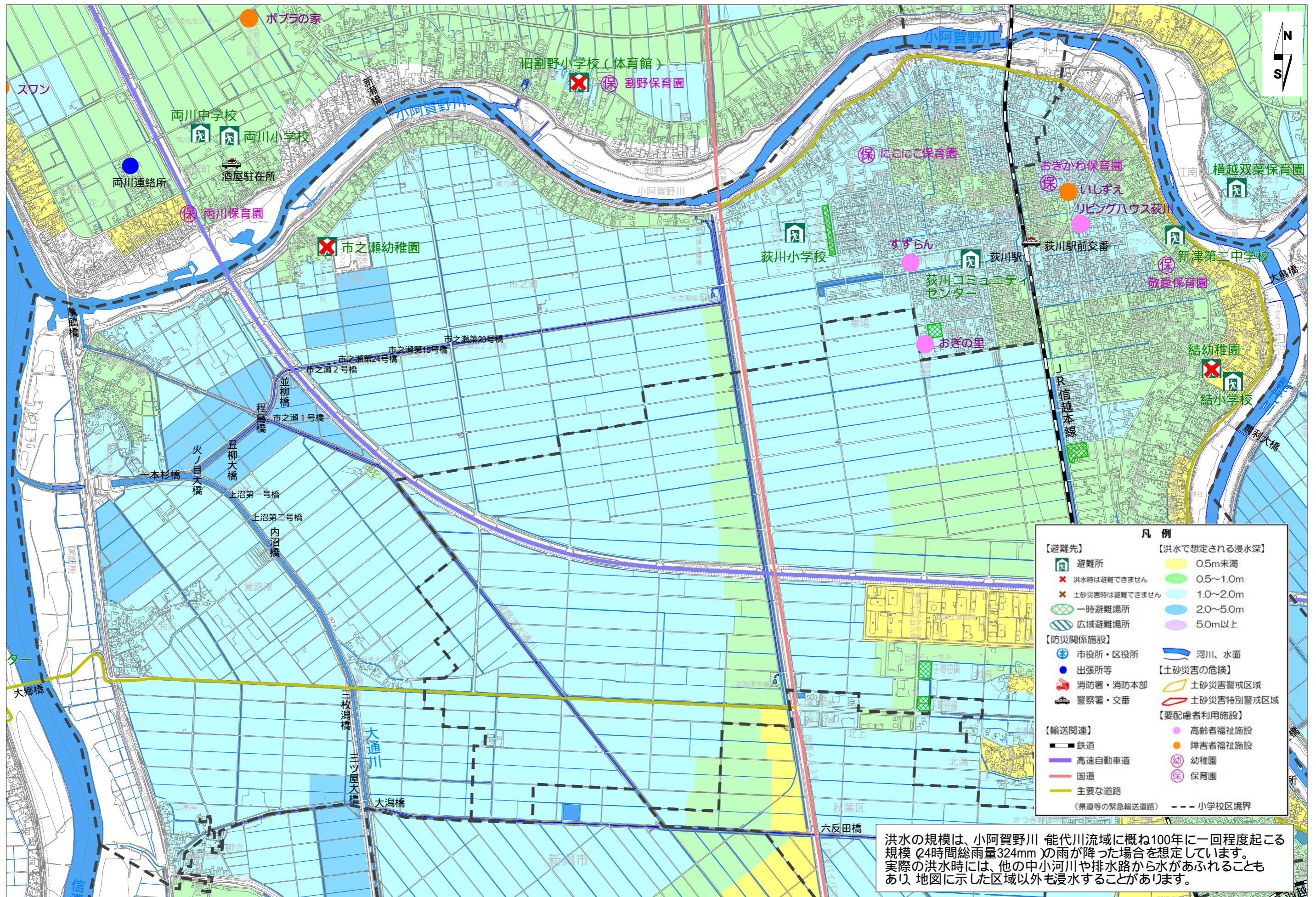


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)

0 500 1,000 1,500 2,000m

様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（小阿賀野川・能代川）

荻川小学校区



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）  
小阿賀野川・能代川浸水想定区域（新潟県、平成16年6月23日）

0 500 1,000 1,500 2,000m